

シドニー留学便り__vol.2

留学生生活を始めて早2か月半が経ちました。シドニーでは1月が真夏の時期のようで、最近は暑さも和らげられました。今回のお便りでは、1月初旬から始まった5週間の英語コースの様子についてお伝えしたいと思います。

GAS (Graduate Academic Skill) course

今回私が参加したのは、大学進学を予定している留学生向けのAdvanced English courseで、高校卒業したての学生から大学院進学予定者まで年齢層も幅広く、専門とする分野も、経済学部や商学部などの文系学部から、工学部、理学部などの理系学部まで様々でした。出身国の分布ですが、大部分は中国とブラジル、少数派として台湾、タイ、イタリア、ドイツ、そして日本など・・・です。日本人は私1人で、未だに日本人の友達がいません(英語を学ぶ環境としては最適ですが、少々寂しさを覚えます)。

講義テーマは"Globalization"です。どの専門分野の学生にも関連があり議論が深まりやすいテーマということで選ばれたのだらうと思います。このテーマに沿って、Discussion, Debate, Individual essay, Individual presentation, Group report, Group presentationを一つ一つこなしていきながら、Academic Englishを学んでいくというコース設計でした。また、大学での講義同様に、Readingや Online discussion (Web上のdiscussion boardに自分の意見を書き込んだり、他の学生の意見についてさらに意見したりするものです)などの宿題も課されます。単位取得などとは関係ないので、点数や評価を気にする必要ないという点でプレッシャーは少ないですが(一応、コース終了時に成績表はもらえます)、これから大学院課程で必要とされるskillが一通り網羅されており、MPH program開始前の準備としては良いトレーニングになりました。

特に、人前で発言したり質問するのが人一倍苦手な私にとっては、積極的に発言して講義に参加する(しかも英語で)ことのハードルが高かったのですが、周りも全員留学生で、英語が多少下手なのは当たり前という環境がそのハードルを少し低くしてくれました。これに続くMPH programでも、この5週間で少しかだけ鍛えられた度胸?を持って臨みたいと思います。

コース期間中、1日だけexcursion (遠足)があり、シドニー中心部からフェリーで20分ほどのWatsons Bayに行きました。
お天気も良く、海の色がきれいでした！



シドニー生活で気づいたこと

シドニーで日常生活を送ることにはだいぶ慣れてきたところで、日々の生活の中で気づいたことを、2つほど書いてみます。

➤ 喫煙について

こちらでは、あらゆる施設における屋内での喫煙が禁止されています。ですので、喫煙席や喫煙ルームは存在しません。非喫煙者にとっては、安心して食事をしたりお酒を楽しんだりできて、とてもいいたばこ規制だと思ったのですが、この状況の中で喫煙者がどこで喫煙するかというと、“屋外”になるわけです。市内を歩いていると、歩道で喫煙したり、道端のオープンカフェや集合住宅のバルコニーで喫煙している様子を非常によく見かけます。屋外だから煙たくないかということそうでもなく、歩道がなんとなくどこも煙たかったり、人混みの中や信号待ちなどで吸われてしまうと逃げ場がなくなることもしばしばです。屋外といっても、道路や公園などは公共の場でもあるわけで、屋内喫煙の全面禁止が果たして正解なのかなあと感じてしまいました。オーストラリアの喫煙対策については、MPH programでも触れる機会がありますので、そのあたりも学んで来ようと思います。

➤ 電車やバスの運賃

毎日、電車やバスを利用して大学に通う中で、運賃の回収システムが、いかに性善説の下に成り立っているかを痛感しています。例えば、早朝、深夜の駅の改札は、自動改札機にも関わらず開きっぱなしになっていることがよくあります。また、バスの運賃は乗車距離によって異なるにも関わらず、乗るときに行先を自己申告して前払いし、降りるときには切符をチェックされません。いずれも、悪意を持ってズルをしようと思えばできてしまうようなシステムで、日本（特に都市部）ではありえない状況ですが、これがオーストラリアのおおらかさなのでしょう。ただ、ときどき抜き打ちで検札があるので、ある程度の抑止力になっているのかもしれませんが。

また、性善説とは少し異なりますが、定期的な路線メンテナンスのため電車が運休になり、代行バスが出た際の出来事です。その代行バスに乗るには、電車の運休区間に相当する運賃を支払うor有効な切符をもっている必要が当然あるだろうと思っていたところ、なんと無料で乗ってしまいました。“正直な日本人”が念のために運賃について確認したところ、笑いながら「いいから、早く乗って」と言われてしまいました。これではメンテナンスのたびに損をするのでは？と思うのですが、、、なんとも不思議なシステムです。

2月末からはいよいよMPH programのオリエンテーション、そして3月からは講義が始まります。また、折を見てお便りいたします。